

車室内空間を光で演出する「Music:AI for Lighting」を開発 —音楽と光が一体となった臨場感のある空間を創出—

ヤマハ株式会社(以下、当社)は、再生される音楽の曲調や展開に呼応して、車室内の間接照明(アンビエントライト)を最適に制御して演出する新技術「Music:AI® for Lighting」を開発しました。本技術は、すでに開発済みである車室音響の最適化技術「Music:AI*1」を照明演出へ応用したものです。再生される音楽の表現を的確に捉えることで、音の魅力を引き立てる光の演出を実現し、上質で一体感のある車室空間を提供します。



「Music:AI for Lighting」による音楽の曲調に合わせた車室内空間の演出のイメージ

近年、自動車は「セカンドリビング」として進化し、車室内で過ごす時間や利用シーンが広がる中で、音楽、映像、照明を含めた総合的な体験価値が求められるようになってきました。照明演出においては、マルチカラーLEDなどの表示デバイスが普及する一方、音楽表現の意図や展開にまで対応した演出はなく、音量やリズムといった限られた要素に連動するものや、あらかじめ定義された演出パターンの適用にとどまっているのが実情です。

今回開発した「Music:AI for Lighting」は、楽曲連動AIと映像連動AIの2種類があります。音楽をリアルタイムに分析し、その結果に応じて演出を自動生成することで、ライブ演出のような、音と光が有機的に呼応する体験を実現します。楽器開発を通じて長年培ってきた音楽表現への知見と、音響機器メーカーとして携わってきたライブ演出の経験を融合させ、国内外の自動車メーカーへ提案をしていきます。

「Music:AI for Lighting」技術概要

・楽曲連動AI

再生中の音楽をリアルタイムに解析し、楽曲の構造・曲調を把握。曲調の変化に応じて、最適な色調や照明パターンを自動編成し、照明エンジニアが行うような演出を車室内に再現。楽曲と車室空間に調和する、自然で洗練されたライティングを実現。

・映像連動AI

再生中のコンテンツの音要素に着目し、「セリフ」「BGM」「環境音」「効果音」などを瞬時に識別・分析。リアルタイムにコンテンツを分析することで最適なライティング演出を実現し、映像コンテンツの魅力を最大化。

※1 Music:AI : AIを活用して、車室音響を最適化し、新しい音楽体験を提供する当社独自の技術。

https://www.yamaha.com/ja/news_release/2024/24040501/

当社の車載オーディオについて : https://device.yamaha.com/ja/automotive_sound/

*掲載情報はすべて発表日現在のものです。発表日以降に変更となる可能性もありますので予めご了承ください。

■ 報道関係の方のお問い合わせ先

ヤマハ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 担当: 佐藤歩 TEL. 053-460-2210

ウェブサイト https://www.yamaha.com/ja/news_release/ (取材申し込みや広報資料請求が可能です)